

情報連絡員だより 経営環境の悪化続くが、 一部で需要持ち直しの兆しも

6月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

依然として新型コロナウイルスの影響を受けており、全体的に厳しい状況が継続。一部で雇用調整助成金を活用しながらの休業対応もみられる。ただ、業況回復には至らずとも、経済活動再開により、需要持ち直しの兆しも散見される。今後について楽観はできないが、徐々に回復への期待が高まっている。

製造業	食料品		パンは、新型コロナに気温上昇と梅雨が重なり、厳しい状況が続く。菓子は、店売りは徐々に増えているが、まとまった注文が入らず売上が上向かない。製麺は、新型コロナの影響色濃く、引き続き業務用の動きが鈍い。食肉は、輸入豚肉の減少で国産豚肉需要が安定しているが、今後、新型コロナの影響を不安視。
	繊維・同製品		刺繍は、取引先の動向によりまちまちだが、全体的に設備操業度が落ち込んでいる。繊維製品は、業況悪化が続くも、医療用ガウンの製造が順調。繊維物は、前年同期割れの状況が続き、展示会・販売会がすべて中止となる中、移動自粛の解除により展示会・販売会の再開予定もみられる。
	窯業・土石製品		生コンは、工事の延期が生じているが、山間部の公共工事発注などで出荷量増加。碎石は、西毛地域の災害復旧工事本格化や幹線道路工事により売上増加。砂利は、民需増加に伴い出荷・生産量増加、また、河川復旧工事本格化でさらなる需要増を見込む。コンクリートブロックは、新型コロナによる翌月以降の需要減を懸念。
	機械・金属		鍍金は、取引先の休業に伴う稼働率悪化が継続。電機も、大手メーカーの週休3日導入に下請も追従する動きが広がり、新型コロナの影響が深刻化。自動車関連は、SUBARUが通常生産体制に戻ったものの、下請は売上が半分以上に落ち込み厳しい状態。半導体関連は、受注量が大幅に減少する中、5G向けは好調。
	その他の製造業		紙加工品は、前月より取引先に多少動きがみられるが、依然として売上は2～5割減少しており、在庫が積み上がっている。印刷は、イベントなどがすべて中止になった影響で業況悪化が続く。ゴム製品は、大手メーカーの生産再開に伴い注文が入り始めたものの、需要はあまり回復せず、休業による対応が続く。
非製造業	卸売業		卸団地は、緊急事態宣言は解除されたものの業況低迷が続き、また、組合主催イベントの開催も困難。農産物卸は、学校給食の再開等によりほぼ持ち直したが、飲食関係は依然低迷。一方、水産物卸は、飲食店の再開等により売上が戻りつつある。輸出関連は、相変わらず海外への輸出ができず、予断を許さない状況。
	小売業		生花小売は、イベントの減少が響き、ここ数ヶ月で最悪の状況。商店街は、人通りは寂しく、廃業による組合員減少を懸念。家電小売は、定額給付金によるエアコンなどの需要あり。燃料小売は、販売量が戻りつつある中、原油価格上昇の気配。中古車オークションは、流通状況が良化しているとの声もあり、今後に期待。
	サービス業		温泉旅館は、宿泊費を補助する県のキャンペーン効果で大きく持ち直したが、大型旅館は3密対策を講じながらの営業のため、売上は前年の半分程度に留まり、休館を続ける施設もみられる。不動産取引は、営業活動縮小により売上はマイナス基調。建築設計は、業況が悪化。自動車整備は、売上・収益ともに前年並み。
	建設業		建設工事は、工事の遅延が頻発し、今後売上減少を危惧する企業も散見。鉄構も、一部で工事の遅れを指摘する声がかれ始める。電気工事は、製品不足等が経営に悪影響。塗装工事は、売上は回復していないが、公共工事の入札物件増加が好材料。解体工事は、民間の設備投資の遅れなどが影響し、厳しい状況継続。
	運輸業		家庭用食料品以外の輸送量の激減や運賃の値下げ傾向により、非常に厳しい状況が続き、先行き不透明。野菜関連は、人手不足や天候不順の影響で出荷が遅れたため、輸送量がやや減少。小口配送は、医薬品の配送量は多少増加したものの、全体の依頼数がこれまでにないほど減少しており業況悪化。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

●鉱工業生産指数(季節調整値) 63.9(前月比▲34.3%)「県統計課・5月」
●求人倍率(季節調整値) 新規1.66倍・有効1.33倍「群馬労働局・5月」

●大型小売店販売額 276億円(前年同月比+8.0%)「経済産業省・5月」
●消費者物価指数(全国) 101.8(前年同月比+0.1%)「総務省統計局・5月」
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)